

## 令和5年度 事業報告

社会福祉法人品川総合福祉センター

令和5年度 事業報告

目 次

<b>【高齢者事業所】</b>		<b>【障害者事業所】</b>	
法人本部	2	かもめ園 知的障害部門	15
地域福祉課	3	かもめ園 身体障害部門	16
<b>【高齢者事業所】</b>		サンかもめ 生活介護	17
かえで荘	4	品川区立心身障害者福祉会館（生活介護）	18
品川区立中延特別養護老人ホーム	5	品川区立心身障害者福祉会館（機能訓練）	19
品川区立八潮南特別養護老人ホーム	6	品川区旗の台障害児者相談支援センター	20
品川区立グループホーム八潮南	7	障害者計画相談支援事業所（中延・大井第二・八潮）	21
品川区立中延在宅サービスセンター	8	品川区障害者地域活動支援センター	22
品川区立八潮在宅サービスセンター	9	福祉工場しながわ 就労継続支援A型	23
品川区立大井在宅サービスセンター	10	鮫洲なぎさの家 共同生活援助	24
品川区中延在宅介護支援センター	11	さつき 就労継続支援B型	25
品川区八潮在宅介護支援センター	12	<b>【保育園】</b>	
品川区大井在宅介護支援センター	13	八潮中央保育園	26
品川区大井第二在宅介護支援センター	14	品川区立八潮北保育園	27
<b>【公益事業】</b>		<b>【公益事業】</b>	
		八潮わかくさ荘	28
		大井倉田わかくさ荘	29
		大井三丁目高齢者憩いの場	30

# 法人全体事業報告

(令和5年度年間まとめ)

	計画	実施内容	下半期進捗状況及び年度末結果
1	第二期中期経営計画 (1)【人権擁護（虐待ゼロ）】	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員一人ひとりの自覚を促し、専門性の高い支援と対人援助専門職としての人権意識及び倫理観の醸成を進め、虐待ゼロを目指す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢事業所で虐待認定を受けたため、虐待ゼロの目標は達成することができなかったが、研修や各事業所での取り組みにより、人権意識と倫理観は高くなってきている</li> <li>引き続き取り組みを続けることで、虐待ゼロを達成する</li> </ul>
2	(2)【収支改善（赤字ゼロ）】	<ul style="list-style-type: none"> <li>各施設単位で稼働率の確保、コスト削減に徹底して取り組む</li> <li>法人全体で共通する経営課題について対策を講じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>通所事業所については、目標稼働率を達成、また高めることができた</li> <li>法人の基幹事業である障害・高齢入所事業所の稼働率が、感染対策をおこなっていても影響が出たため、目標を達成できなかった</li> <li>経営課題への早期対策として、経営会議の日程を変更した</li> </ul>
3	(3)【職員配置（欠員ゼロ）】	<ul style="list-style-type: none"> <li>職場環境改善のため、働き方改革基本方針に引き続き取り組む</li> <li>ワークライフバランスを考慮した働きやすい職場を作る</li> <li>職員育成を重視し、新任職・中堅職員、リーダー候補者の育成に努める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>採用活動を強化することで、昨年度より30%採用人数は増えたが、同業他社への転職や病気を理由とした退職者数が増えたため、欠員ゼロの目標を達成することはできなかった</li> <li>「職員紹介制度」を導入し、初年度より5名の採用につなげた</li> <li>法人全体で、リーダー候補者育成を含めた人事育成を重要事項とする各事業所での育成強化を次年度への課題とした</li> </ul>
4	(4) その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>法人事業の理解を進めるため地域への発信力を強化し、品福ブランドを確立する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域福祉課による事業や一部の事業所からの発信を行う事で、法人のことを知っていただくことにつながっている</li> <li>次年度への申し送りとして、各事業所での取り組みと発信を強化する</li> </ul>
その他	<p>〈法人特記事項〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年4月に40周年記念式典を開催した</li> <li>かもめ園において、法人内他事業所で導入済みのICT機器を参考に、眠りスキャンとインカムを組み合わせて導入した</li> <li>区立八潮南特別養護老人ホーム増改築計画に協力し、区と共に計画案の作成、検討に取り組んだ</li> <li>福祉工場プチレーブ店舗移転（令和6年11月期限）に伴う移転先は未定、また、区立中延複合施設の大規模改修について区との協議を開始した</li> </ul>		

事業所名 **地域福祉課**

(令和5年度年間まとめ)

R5年度目標稼働率	R5年度年間稼働率
/	/

	計画	実施内容	下半期進捗状況及び年度末結果
1	第二期中期経営計画 (1)【人権擁護（虐待ゼロ）】 (2)【収支改善（赤字ゼロ）】 (3)【職員配置（欠員ゼロ）】	(3) 地域における取組を安定的・継続的に実施していくために、職員育成・配置について取り組む	(3) 年度途中の職員の欠員により、業務が滞ることがあったが、法人外の関係業務には、内部の状況で業務に支障が出ないように配慮して行った 法人内部では、地域福祉課の業務の遅れがでることもあった
2	地域福祉ニーズを把握し、福祉啓発・福祉教育・社会貢献などの取組みを行う	地域のニーズを把握する ・福祉啓発講座 ・福祉教育 ・こどものつどい 等の企画開催	・「ヤングケアラー」について、地域に講師を派遣し、地域小学校8年生と地域関係者と教員と共に学ぶ企画を開催 ・区内3つの小・中学校に、福祉講座を実施した ・福祉啓発講座で「ヤングケアラー」について、会場とWEBのハイブリット開催を実施した ・「こどものつどい」を4年ぶりに開催した
3	広報活動として、事業の理解を進めるための情報発信を行う	・ホームページの運用 ・広報誌しなふくニュースの発行 ・法人各所の掲示板・ロビー壁の活用	・ホームページ改新のため、業者との調整・原稿修正確認等を実施 ・ホームページの情報更新をこまめに行い、様々な情報発信を行った ・広報誌第159号（R6.4.1号）の紙面全面リニューアルを行った ・ロビー正面壁画を活用し、区内小学校・ボランティア団体とつながり、学校の機関誌・団体のSNSでの情報発信にもつながった。
4	「地域とともに」の実現を目指して、地域とのつながり・地域交流の機会を通し、相互理解と信頼関係を築き、地域福祉力向上をめざす	・しなふく紅葉フェスタの開催 ・ボランティアの育成・活動支援	・「しなふく紅葉フェスタ」を4年ぶりに開催した。企業・NPO・地域団体・ボランティア等地域とのつながりを活かしたイベントになり、地域と利用者・施設が協働で行う企画を共に楽しみ「地域とともに」を実現した
その他	〈事業所特記事項〉 令和5年度 法人全体ボランティア活動状況集計 延べ人数1965名、活動人数1025名（受入れ施設数 10事業所）		

事業所名 **かえで荘**

(令和5年度年間まとめ)

R5年度目標稼働率		R5年度年間平均稼働率	
施設入所生活	短期	施設入所生活	短期
96.0%	90.0%	90.1%	103.1%

	計画	実施内容	下半期進捗状況及び年度末結果
1	<p>第二期中期経営計画</p> <p>(1)【人権擁護（虐待ゼロ）】</p> <p>(2)【収支改善（赤字ゼロ）】</p> <p>(3)【職員配置（欠員ゼロ）】</p>	<p>(1)虐待認定を受け、改善計画に従い取り組みを実施する</p> <p>(2)早めの入所調整を心掛ける</p> <p>(3)欠員補充の採用活動及び代替のため派遣職員を配置する</p>	<p>(1)小集団での虐待防止研修(施設長主催)を職員全員に実施。虐待防止委員会を中心にマニュアルの読み合わせや職員会議で意見交換の場を毎回設け、人権意識を向上させた</p> <p>(2)空床活用を継続しショーステイの稼働を向上させた。特養本体では1月以降は入院者も少なく入所調整が順調に進み、2月の稼働率は目標に達した</p> <p>(3)夜勤専従非常勤と常勤を1名ずつ採用し定着したが、日勤帯非常勤1名は定着せず</p>
2	<p>(1)個別ケアの推進</p> <p>(2)多職種協働によるチームケア</p>	<p>(1)「〇〇さんらしい暮らし方シート」を作成し、ケアプラン内容に反映させる</p> <p>(2)カンファレンス時や各委員会時に情報共有し、多職種連携を実践</p>	<p>(1)サービス向上委員会でシート活用の周知を進めた。徐々にカンファレンスに活用されるようになってきている。フロア単位で温度差があり、シートの意義と活用方法の周知を継続して行っていく。</p> <p>(2)褥瘡予防ではOHスケールや栄養状況の確認で全利用者の褥瘡リスクを数値化し、ベットマットや食事摂取などの内容を栄養士、介護士、訓練士等で検討し対応した</p>
3	職員の専門性向上	現任研修で必要な専門知識の共有を図り実践に結び付ける	<ul style="list-style-type: none"> <li>「褥瘡予防のためのポジショニング研修」、「アンガーマネジメント」、「ターミナルケア」、「感染症防止のための研修及び訓練」、「身体拘束・虐待防止研修」、「非常災害時の対応方法BCP研修」について後期に実施した。いずれも概念理解のみだけでなく実地訓練やグループ討議を取り入れ、専門的知識が実践に結び付けられるよう工夫した</li> </ul>
4	ICTの導入による業務改善とリスクマネジメントの強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年導入した介護機器「ハグ」の活用方法の周知、利用推進を図る</li> <li>ICT見守りシステムの導入に向けた取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハグ導入は立位動作補助の意味合いで、排泄自立への取り組みに活用した。東京都の補助金を活用し、取り組み内容の発表をし保健財団ホームページにも掲載された。来年度はハグ活用の対象者を再度検討し継続して支援に活かしていきたい</li> <li>見守りシステムを含め施設内の困り事を検討する。導入にあたってキャノンシステムサポートの支援を受け、課題抽出のためのアンケートを来年度早々に先行機器選定を行う</li> </ul>
その他	<p>〈事業所特記事項〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初より職員欠員があった上、体調不良による長期欠席で職員の絶対数が足らなかった</li> <li>・利用者サービスが行き届かないことが多く職員間のモチベーションが保てない状況があった</li> <li>・欠員補充のため採用活動は年間を通じて実施し、年度後半には新規採用し成果が見られた</li> <li>・来年度は職員の適正配置を進め、ICT導入等業務改善への取り組みによってより充実した利用者支援を行い、職員のモチベーションを上げて行く</li> </ul>		

事業所名 **品川区立中延特別養護老人ホーム**

(令和5年度年間まとめ)

R5年度目標稼働率		R5年度年間平均稼働率	
施設入所	短期	施設入所	短期
96.0%	95.0%	89.7%	83.5%

	計画	実施内容	下半期進捗状況及び年度末結果
1	第二期中期経営計画 (1)【人権擁護（虐待ゼロ）】 (2)【収支改善（赤字ゼロ）】 (3)【職員配置（欠員ゼロ）】	(1)虐待防止委員会で虐待の芽チェックリストを元に、ケアを検討 (2)入院を減らす取り組みを行う (3)年度当初欠員はいない	(1)下半期よりチェックリストの「気になる事」欄に記載されたものより選定した意見について全職員より考えを記載するようにした（毎月）そこから業務改善に繋がるケースもあった (2)感染症のクラスターにより入院者数が前年と比較し延べ46人増 (3)3名の実習生を令和6年度の法人入職に繋げる事ができた
2	(1)価値観の共有を行う (2)個別ケアの推進	(1)役職者の打合せでケアの価値観と方向性を確認する (2)生活相談員を中心に多職種でカンファレンスを実施する	(1)毎月2回、役職者の打合せを実施したことで、ケアの価値観と方向性の共有をすると共に、J-MOTTOの会議室を積極的に活用し職員個人の事やケア以外の事も共有した (2)カンファレンスは自身の職種のプライドと相手の職種をリスペクトする事を大切にしていける事を共有し予定通り実施できた
3	人材育成を重視する	全職員が行うオンライン研修および現任研修に追加して新任研修、2年目研修、3年目研修と経験年数に合わせた研修を実施する	・各研修予定通り実施 ・虐待防止研修について、下半期は紙面での研修を毎月実施 ・紙面での実施は口頭よりも伝えやすいメリットがあり効果的であった ・経験年数毎に行う研修は、経験年数に応じた内容で研修を実施（新任は基礎中心、3年目は研修内容から講師まで計画を自ら立てる）
4	ニーズに合わせたショートステイ事業の提供を行う	全職員で地域のセーフティーネットの役割を理解し緊急ショートは積極的に受け入れる	・緊急ショートは、空床があれば医療面などで対応が困難な時を除き積極的に受け入れている] ・在宅介護の現状を知るために職員の交換研修を実施した（2名の職員を週に1日デイサービスへ）
その他	<p>〈事業所特記事項〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度にエントリーする予定であった品川保健従事者実践・研究発表会が中止となり、モチベーションが低下し入浴の取り組みが停滞した事は否めないため、令和6年度にエントリーする事を目標に取り組みを続けていく</li> <li>・令和6年度に最上級生となる学生がアルバイトとして現在4名在職中。令和7年度の就労へ繋げていく</li> </ul>		

事業所名 **品川区立八潮南特別養護老人ホーム**

(令和5年度年間まとめ)

R5年度目標稼働率		R5年度年間平均稼働率	
施設入所	短期	施設入所	短期
96.0%	90.0%	89.6%	74.0%

	計画	実施内容	下半期進捗状況及び年度末結果
1	第二期中期経営計画 (1)【人権擁護（虐待ゼロ）】 (2)【収支改善（赤字ゼロ）】 (3)【職員配置（欠員ゼロ）】	(1)法人全体での取り組みと合わせて実践 (2)入所調整の進行管理 (3)4名の欠員を補充する	(1)虐待の発生はなくゼロを達成できた。法人の取り組みをベースに事業所全体に周知できた (2)相談員と管理部門等と連携しながら、入所調整・進行管理をおこなった。令和5年度の入所は33件、退所は24件。年度初めの12床の空床は残り1床にまで減った (3)職員紹介により入職者がいたが、欠員については完全にゼロにはできなかった
2	(1)目標稼働率の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>入所調整を工夫して進める。</li> <li>入院につながる誤嚥性肺炎やケガなどの事故を減らす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度途中より相談員を増員し、空床をなくすことを目標として進めてきたことで年度末にはほぼ空床がなくなったが、下半期は入院者が増えたため稼働率と連動が出来なかった</li> <li>下半期の入院は肺炎または誤嚥性肺炎によるものが割合として多かった</li> <li>感染症による入院もあり、重症化させないように留意していく必要があった</li> </ul>
3	(2)日常生活の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>一定水準の感染対策をおこなう</li> <li>面会制限の解除や外出・行事などを昨年度よりも多く取り入れるようにする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ感染症に関しては大規模なクラスターの発生はなく、対応についても職員が迅速に行った</li> <li>胃腸炎による感染が発生し、コロナ以外の感染対策の見直しの必要性を感じた</li> <li>面会については、段階的に制限を解除し、より多くの方に面会の機会を拡大した</li> <li>行事や外出も昨年度よりも多く開催、フロア間の交流が利用者から喜ばれた</li> </ul>
4	(3)科学的介護情報システムLIFEの取り組み	委員会を中心に、6月頃より本格的に導入の準備を進める	<ul style="list-style-type: none"> <li>LIFEの導入は、委員会を中心に準備を始め、計画通り8月から提出をおこなった</li> <li>全職員への周知は、手順書などを用意して実施した</li> <li>この先、法改正などの情報をしっかり把握し、LIFEへの提出を滞りなく実施していきたい</li> </ul>
その他	〈事業所特記事項〉 ・増改築について 品川区と増改築に伴う開設準備委託契約を締結し、東京都への申請書類の作成や打ち合わせ等の要請に対し、協力・連携を図った		

事業所名 **グループホーム八潮南**

(令和5年度年間まとめ)

R5年度目標稼働率		R5年度年間平均稼働率	
施設入所	短期	施設入所	短期
98.0%		96.5%	

	計画	実施内容	下半期進捗状況及び年度末結果
1	第二期中期経営計画 (1)【人権擁護（虐待ゼロ）】 (2)【収支改善（赤字ゼロ）】 (3)【職員配置（欠員ゼロ）】	(1)本人を中心においたケアを基本とし、人権の尊重につなげる (2)常勤補充をおこなわず人件費を抑える (3)単発派遣を活用し人員を調整する	(1)不適切ケアについて、ヒアリング等をおこない注意喚起した (2)1名退職に対し、1名入職。それ以上の常勤採用はおこなわず、非常勤を補充 (3)人員が不足する土日を中心に、単発の派遣介護士を10月以降週1回のペースで活用し、1日の必要配置数を満たした 非常勤であっても、夜勤のできる介護士を増やしていきたい
2	目標稼働率の確保	入院日数を少しでも減らすために、体調変化の早期発見、早期対応を強化する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年と比較すると、入院日数は230日程度減少している（昨年はコロナ入院が多発した影響が大きい）</li> <li>・今年度は前半に入院が集中したが後半は安定</li> <li>・退所から入所までの期間も以前より短縮することで、1か月以内で進めた</li> <li>・目標化稼働率に届かなかったが、昨年より4.1ポイントUPした</li> </ul>
3	日常生活の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者のコロナ感染をおさえる</li> <li>・調理などできることを続けておこなう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ感染症については、利用者への感染はゼロであったが、インフルエンザの集団感染が発生してしまった</li> <li>・原因と分析し、初動対応の遅れに注目し、感染症が発生しやすい時期は、初動対応を迅速に行っていくこととした</li> <li>・日常を丁寧に実践するために、3度の食事作りを利用者とともにおこなった</li> </ul>
4	職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症関連の研修受講を推進し、複数名受講する</li> <li>・認知症ケアへの取り組みを中心に、全職員が特定のツールを使って実践する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症介護実践者研修を3名受講。また、認知症介護基礎研修を無資格の非常勤3名が受講した。</li> <li>・サービス向上員会の取組みとして、紐解きシートなどを活用し、全職員が一人の利用者に対し、様々な意見を集約するというものを実施した</li> <li>・カンファレンスでも同様に、意見やアイデアを出し合いケアの改善に取り組んだ</li> </ul>
その他	〈事業所特記事項〉 業務改善として、勤務時間割り振りの時間を一コマ増やし夜勤明けの超過勤務の削減に務めた		



事業所名 **中延在宅サービスセンター**

(令和5年度年間まとめ)

R5年度目標稼働率		R5年度年間平均稼働率	
一般	認知	一般	認知
77.0%	60.0%	80.8%	60.4%

	計画	実施内容	下半期進捗状況及び年度末結果
1	第二期中期経営計画 (1)【人権擁護（虐待ゼロ）】 (2)【収支改善（赤字ゼロ）】 (3)【職員配置（欠員ゼロ）】	(1)虐待防止委員会を毎月実施する (2)稼働率向上により収入の安定を図る (3)非常勤職員の1名欠員を補充する	(1) 毎月実施する虐待の芽チェックリストに記載される職員の声を共有し、利用者への対応について検討することで、適切な対応へと繋げている (2) 目標稼働率を達成し収入を確保することで収支改善を図る事が出来た (3) 令和6年1月に非常勤職員を採用し定数を満たすことが出来ている
2	運営推進会議を実施する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期は8月に実施する</li> <li>・利用者家族、地域住民、区職員等が参加し活動内容について検討する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後期は3月に実施、デイサービスの事業運営について報告を行うと共にサービス内容について評価して頂いた</li> <li>・利用者・家族の参加もあり具体的なサービス内容についても話題になったが、概ね好意的な意見が多かった</li> <li>・地域の関係者も多数参加していたため、地域の困り事についても検討する時間を持った</li> </ul>
3	本人の力を活かしたサービスの提供	本人の力を活かしたケアを実践できるよう通所介護計画の作成を行っていく	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の力を見極めるためにも、本人を知る事に力を入れ、アセスメント力向上を図った</li> <li>・認知症の方への対応力を向上させるため、認知症介護実践者研修へ介護職員を参加させた</li> </ul>
4	地域住民が気軽に相談できるよう関係を構築する	コミュニティカフェとして喫茶せせらぎを6月より再開する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居場所作りを兼ねたコミュニティーカフェは6月より毎月実施した</li> <li>・地域開放事業も予定通り年2回開催した</li> <li>・ボランティアの受け入れも再開し、元気な高齢者の活動の場としても機能している</li> </ul>
その他	〈事業所特記事項〉 ・元気な高齢者を対象に、施設の選び方や在宅生活の継続について考えることが出来る講座を企画し実施、介護者の参加もあり法人内入所施設の案内を行うことも出来た		

事業所名 **八潮在宅サービスセンター**

(令和5年度年間まとめ)

R5年度目標稼働率	R5年度年間平均稼働率
68.0%	73.1%

	計画	実施内容	下半期進捗状況及び年度末結果
1	第二期中期経営計画 (1)【人権擁護（虐待ゼロ）】 (2)【収支改善（赤字ゼロ）】 (3)【職員配置（欠員ゼロ）】	(2) 6月より稼働向上 (3) 常勤1名・非常勤1名、計2名の欠員を解消する	(1) 虐待防止委員会を毎月開催 (2) 6月以降、目標稼働率（68%）を上回る、70%以上の稼働率が年度末まで続き、年間で73.1%を維持することができた (3) 非常勤職員が6月に1名、2月に1名入職している
2	品川区介護予防事業：一般介護予防事業「マシンでトレーニング」の充実により介護状態にならず自立した生活を継続できるよう支援する	充実したサービス内容を、ケアマネを通じて利用者に伝え、利用拡大につなげる	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康維持管理に関心が高い住民が多く、ケアマネジャーを通じ多数の参加申し込みがあった</li> <li>参加者を中心に、リハビリの効果があると評判になり、満足度も上がっている</li> </ul>
3	総合事業対象者の受入れを積極的に行い、身体機能の維持・向上を図るサービスメニューを強化し、在宅での生活の継続を支える	短期間での終結や介護への変更もふまえて、利用希望者を募う	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人暮らしで引きこもりがちな方をケアマネジャーから紹介されることが多く、身体機能維持・向上を期待されているが、人とのふれあいを促進することで認知症予防効果も上がってきている</li> <li>総合事業から要介護状態になった方への迅速な対応もできている</li> </ul>
4			
その他	〈事業所特記事項〉 ・収支としては、前年度と比較すると赤字幅は70%ほど減少しているが、あと一步の努力が必要 ・サービス内容の検討と向上に務める必要がある		

事業所名 **大井在宅サービスセンター**

(令和5年度年間まとめ)

R5年度目標稼働率		R5年度年間平均稼働率	
一般	認知	一般	認知
79.0%	41.0%	79.8%	43.0%

	計画	実施内容	下半期進捗状況及び年度末結果
1	第二期中期経営計画 (1)【人権擁護（虐待ゼロ）】 (2)【収支改善（赤字ゼロ）】 (3)【職員配置（欠員ゼロ）】	(1)虐待防止会議を毎月開催する (2)稼働を向上する (3)欠員を補充するため、派遣の導入を検討する	(1)虐待防止会議を毎月開催し実施した 虐待防止に関わる研修を在支と共に実施した (2)下半期；一般デイ⇒78.9%（目標77.0%）年間平均79.8% 認知症デイ⇒45.2%（目標41.0%）年間平均43.0% 目標稼働率は一般デイ・認知症デイ共に達成出来た (3)職員欠員を補充するため、派遣職員を導入した
2	サービス提供体制強化加算Ⅰと機能訓練加算の新規加算を取得し、収支を増やしていく	サービス提供体制強化加算Ⅰと機能訓練加算の加算要件の確認作業をすすめる	・サービス提供体制強化加算Ⅰについては非常勤及び派遣職員の導入により、介護福祉士の配置割合が下がり取得出来なかった ・機能訓練加算についても人員配置が出来ず加算取得が出来なかった
3	(1)新規事業の試行 大井三丁目高齢者憩いの場と協働し、早期認知症症状の対象者の通いの場を作る (2)認知症伴走型支援事業の研究	(1)プログラムを選定し、実施する (2)事業開始のための情報収集をおこなう	(1)認知症予防、認知機能チェック・トレーニング等を行う専門のソフトウェアを大井三丁目高齢者憩いの場と協働し検討、研修を実施した（次年度導入予定） (2)情報収集の結果、当事業所では導入が難しく断念している
4	法令遵守のため、通所介護計画書やサービス状況報告書の作成等の業務・サービス管理を強化し法令順守を徹底する	生活相談員リーダー（リーダー）を中心に書類の管理を実施する	・生活相談員リーダー（リーダー）だけでなく、一般職員もケース担当として責任を持ち、報告書等の書類作成を行い、サービス管理を強化することが出来た
その他	〈事業所特記事項〉 ・一般通所介護の土曜日の定員増に関しては好評で他の曜日と変わらず稼働率を維持できた ・認知症対応型通所介護については、新規利用者に加え、一般通所介護から本人の状態をケアマネやご家族へ説明しサービス変更を実施した結果、稼働率が上昇している		

事業所名 **中延在宅介護支援センター**

(令和5年度年間まとめ)

R5年度目標稼働率	R5年度年間平均稼働率
/	/

	計画	実施内容	下半期進捗状況及び年度末結果
1	第二期中期経営計画 (1)【人権擁護（虐待ゼロ）】 (2)【収支改善（赤字ゼロ）】 (3)【職員配置（欠員ゼロ）】	(1)虐待防止委員会にて「発見」も含めて検討する (2)(3) 介護支援専門員1名の減員で収入が減少したため、新規採用を行う	(1) 虐待の芽チェックリストを実施し、記述について職員間で共有した虐待防止委員会にて、虐待・人権についてディスカッションを実施した (2)(3) 介護支援専門員の採用が困難（令和5年度は1名減員で運営）だったため、ケース数を調整し収支の均衡を図った
2	(1)コンプライアンス維持 (2)BCP計画の作成	(1)コンプライアンス維持する (2)BCP計画を作成する	(1) 4在支共通で定めるチェックリストを活用し、自己点検・相互点検を行い、より確実にするため、4在支のリーダー間で更にチェックを実施している (2) BCPの作成を実施、合わせて災害時個別避難計画も作成した
3	地区別地域ケア会議の機能強化	中止されていた会議を再開する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ感染症5類移行に合わせ令和5年5月より地区別地域ケア会議を再開している</li> <li>・事例検討を通し、個別課題の解決を図ると共に、地域に共通した課題を明確にし解決に向け、多職種協働で検討している</li> </ul>
4	地域福祉力の向上	併設の事業所と連携し、コミュニティカフェ「喫茶せせらぎ」を6月より再開する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティカフェを6月より毎月開催した</li> <li>・気軽に参加できるようにイベント的な要素を取り入れ、折り紙教室等を企画した</li> <li>・明治安田生命保険相互会社の協力を得て血管年齢測定等も実施し近隣の方に参加を呼びかけた</li> </ul>
その他	<p>〈事業所特記事項〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・併設する障害者計画相談支援事業所とも連携し、週1回個別のケースについて検討及び情報の共有を行った</li> <li>・複合施設内の他事業所と協同し一体的な支援が行えるよう調整を実施した</li> <li>・ハラスメントに関する研修を検討したが、新年度に向け制度改正に関する研修会、情報収集に時間を要し次年度への持ち越しとした</li> </ul>		

事業所名 **八潮在宅介護支援センター**

(令和5年度年間まとめ)

R5年度目標稼働率	R5年度年間平均稼働率
/	/

	計画	実施内容	下半期進捗状況及び年度末結果
1	第二期中期経営計画 (1)【人権擁護（虐待ゼロ）】 (2)【収支改善（赤字ゼロ）】 (3)【職員配置（欠員ゼロ）】	(3)ケアマネージャーを確保する	(3)第四4半期に1名入職 (研修中であるため、デイサービスセンターで勤務、令和6年8月より在支へ異動予定)
2	コンプライアンス維持	昨年度末に運営基準違反が発覚したことも踏まえ、コンプライアンスを遵守する	・訪問・モニタリングなどの作業を、専用のチェックリストを用いて可視化を図り、4つの在宅介護支援センターにて相互点検を実施した
3	B C P 計画の作成	BCP計画を作成する	・ B C P 計画の作成と、個別避難計画を作成した
4	地区別地域ケア会議の機能強化	中止されていた会議は、6月から再開している	・コロナ感染症が5類になったことから、令和5年6月より地域の事業者が集まり事例検討や地域の様々なニーズ等を共有する場としての地域ケア会議を再開した
その他	<事業所特記事項> ・地域住民のための『図書館カフェ』（会場は地域センター）に、可能な限り介護支援専門員が参加し、地域住民に向けた情報提供を行った ・図書館カフェに参加する方向けに、認知症サポーター講座も開催している ・高齢化が進む地域の在宅介護支援センターとして、支え愛ホットステーションの支援員と連携し地域づくりを実践している		

事業所名 **大井在宅介護支援センター**

(令和5年度年間まとめ)

R5年度目標稼働率	R5年度年間平均稼働率
/	/

	計画	実施内容	下半期進捗状況及び年度末結果
1	第二期中期経営計画 (1)【人権擁護（虐待ゼロ）】 (2)【収支改善（赤字ゼロ）】 (3)【職員配置（欠員ゼロ）】	(1)研修を実施する (2)積極的にケースを受けていく	(1) デイサービスと共に虐待防止に関する研修を実施 (2) 積極的に末期がん等の方を受け入れた
2	・コンプライアンス維持 ・BCP計画の作成	(1)コンプライアンスを維持する (2)BCP計画を作成する	(1)ケアプラン、訪問等の管理はできており、ケアプランチェックと平行してモニタリング確認表で入力確認を実施した (2)BCP計画については完成している 個別避難計画は作成済み
3	地区別地域ケア会議の機能強化	中止されていた会議を再開する	・コロナ感染症が5類になったことから、令和5年6月より地域の事業者が集まり事例検討や地域の様々なニーズ等を共有する場としての地域ケア会議を再開した
4			
その他	〈事業所特記事項〉 ・大井第二在宅介護支援センターと合同で認知症サポーター講座を3回開催した ・開催にあたり、内容について参加者と事前に打合せを行い、参加者が知りたい事、学びたい事を盛り込む他、グループワークの進め方等も一緒に考えることで、参加者自身が自分事として考えるきっかけとなった		

事業所名 **大井第二在宅介護支援センター**

(令和5年度年間まとめ)

R5年度目標稼働率	R5年度年間平均稼働率

	計画	実施内容	下半期進捗状況及び年度末結果
1	第二期中期経営計画 (1) (1) 【人権擁護（虐待ゼロ）】 (2) 【収支改善（赤字ゼロ）】 (3) 【職員配置（欠員ゼロ）】	(1)研修を実施 (2)収入減 (3)法人内のケアマネジャー不足により八潮在宅介護支援センターに職員を送り、介護担当1名を減らしている	(1)虐待防止に関わる研修を実施した (2)(3)年度を通して介護担当が1名減であったため、ケースが減少し報酬も減っている
2	・コンプライアンス維持 ・BCP計画の作成	(1)コンプライアンスを維持する (2)BCP計画を作成する	(1)ケアプラン、訪問等の管理はできており、ケアプランチェックと平行してモニタリング確認表で入力確認を実施した (2)BCP計画の作成と、個別避難計画を作成している
3	地区別地域ケア会議の機能強化	中止されていた会議を再開する	・コロナ感染症が5類になったことから、令和5年6月より地域の事業者が集まり事例検討や地域の様々なニーズ等を共有する場としての地域ケア会議を再開している
4			
その他	〈事業所特記事項〉 ・大井第二在宅介護支援センターと合同で認知症サポーター講座を3回開催した ・開催にあたり、内容について参加者と事前に打合せを行い、参加者が知りたい事、学びたい事を盛り込む他、グループワークの進め方等も一緒に考えることで、参加者自身が自分事として考えるきっかけとなった		

事業所名 **かもめ園（知的部門）**

（令和5年度年間まとめ）

	施設入所	生活介護	短期
R5年度目標稼働率	95.0%	85.0%	100.0%
R5年度年間平均稼働率	93.3%	80.4%	79.2%

	計画	実施内容	下半期進捗状況及び年度末結果
1	第二期中期経営計画 (1)【人権擁護（虐待ゼロ）】 (2)【収支改善（赤字ゼロ）】 (3)【職員配置（欠員ゼロ）】	(1)チームアプローチを行う (2)職員全体で意識す支出のスリム化 (3)職員採用活動を積極的に行う	(1)強度行動障害の方のアセスメント、構造化等チームでアプローチした (2)コロナ禍の行事等の縮小とオムツの使用方法を見直すことで支出を減らす(前年より△¥551,249-) ことが出来た (3)早期退職者が1名、生活支援員と栄養士が1名ずつ産休に入っている派遣職員で対応したが3月に入り新規の職員が1名採用できた
2	利用者ニーズの把握と個人を尊重した支援を行う	個別支援計画に基づき支援を行っている。状態変化の際には各関係者が集まりカンファレンスを実施し支援計画の見直しを行う	・他害行為や盗癖等の行動があったり、入院中に身体機能低下が顕著にみられた方々の対応について、区のワーカー、相談支援員,サビ管、医師・看護師・生活支援員などが集まりカンファレンスを開催 ・その中で計画の見直しを行い、利用者の方の支援の方向性を決めた
3	虐待防止と身体拘束の廃止に取り組む	専門研修を受講し、意識と技術、対応力の向上を図る	・研修を実施し、強度行動障害の方の対応を学んだことで、不適切な支援をしないようになった ・接遇、人権研修を定期的実施することで常にそれらを意識して支援に当たるようになった ・虐待防止委員会、身体拘束委員会を毎月開催し振り返りを行い、支援について検討を実施した
4	ICT機器設備導入の促進を行う	令和5年度障害者支援施設等デジタル技術等活用支援事業の交付申請を実施し機器の導入を行い利用者の安全と業務の効率化を行う	・ICT機器を導入し、機器の有効活用の勉強会を開始した ・職員間のコミュニケーションツールが確率されたことで、利用者及び職員のストレスの軽減や業務負担軽減がされた。夜間業務に関しても、睡眠状況が把握でき、利用者の安眠が確保出来るようになった
その他	〈事業所特記事項〉 ・成年後見制度利用者 品川区社会福祉協議会后見人制度利用；7名 弁護士、第三者；7名 合計14名 ・短期入所 身体部門でクラスター時に知的部門で受け入れをした。 ・最高年齢99歳 最低年齢27歳 平均年齢57.8歳		



事業所名 **かもめ園（身体部門）**

（令和5年度年間まとめ）

	施設入所	生活介護	短期
R5年度目標稼働率	95.0%	85.0%	100.0%
R5年度年間平均稼働率	93.7%	87.3%	96.0%

	計画	実施内容	下半期進捗状況及び年度末結果
1	第二期中期経営計画 (1)【人権擁護（虐待ゼロ）】 (2)【収支改善（赤字ゼロ）】 (3)【職員配置（欠員ゼロ）】	(1)障害特性を理解し、支援の統一化と対人援助技術を意識する (2)空床への働きかけを推進 (3)職員採用活動を積極的に行う	(1)権利擁護研修においては外部研修の受講を促進した。 支援技術向上では、他施設訪問を実施した。また、講師を招いて施設内研修を開催した (2)新規入所調整は、テスト利用を重ね時間を要した。長期帰宅者へのアプローチは支援センター及び区職員と働きかけを行い、継続した (3)引き続き、新規採用職員を探している
2	虐待ゼロへの取り組みを行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員が一丸となり意識した支援を行う</li> <li>権利擁護研修の参加促進を行い人権意識を強化する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>虐待ゼロを意識し、全職員が虐待予防と人権擁護研修を受講した</li> <li>毎月委員会を開催し各職員が虐待予防に関しての意識が強化され、積極的な意見交換がされた</li> </ul>
3	重度高齢化のリスク管理を医療機関の指導のもとリハビリを行い、日常生活の中のリスク管理の徹底を推進する	<ul style="list-style-type: none"> <li>訪問リハビリ業者の協力を得て、専門職によるリハビリを導入する</li> <li>介助方法の技術習得のため、役職員を含めむ職員が研修を受講する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業の協力を得てご利用者の身体状況から支援方法の見直しを行った</li> <li>介助技術に関し、専門企業の研修を受講し各職員に周知を行い、利用者・職員相互に負担感がない技術を習得した</li> <li>その内容に関し、しなふく向上発表会にて報告を実施した</li> </ul>
4	ICT機器設備導入の促進を行う	令和5年度障害者支援施設等デジタル技術等活用支援事業の交付申請を実施し機器の導入を行い利用者の安全と業務効率化を行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器を導入し、機器の有効活用の勉強会を開始した</li> <li>職員間のコミュニケーションツールが確率されたことで、利用者及び職員のストレスの軽減や業務負担軽減がされた</li> <li>夜間も、睡眠状況が把握でき、利用者の安眠が確保出来るようになった</li> </ul>
その他	〈事業所特記事項〉 ・成年後見制度利用者 品川区社会福祉協議会后見人制度利用；3名 弁護士、第三者、親族；8名 合計 11名 ・短期入所 知的部門でクラスター時に身体部門で受け入れをした。 ・最高年齢 89歳 最低年齢 29歳 平均年齢 58.2歳		

事業所名 **サンかもめ**

(令和5年度年間まとめ)

R5年度目標稼働率	R5年度年間平均稼働率
89.0%	81.9%

	計画	実施内容	下半期進捗状況及び年度末結果
1	第二期中期経営計画 (1)【人権擁護（虐待ゼロ）】 (2)【収支改善（赤字ゼロ）】 (3)【職員配置（欠員ゼロ）】	(1)委員会・現任研修を実施する (2)加算・サービス推進費を増額させる (3)年度当初人員配置完了	(1)定期的な現任研修・計画的な研修参加が行えた。 (2)人員配置体制加算、重度障害者支援加算の収入や品川区サービス推進費が増額した引き続き、算定可能な加算等を継続して取得する。 (3)職員を増員し、2：1の人員配置とした
2	相談支援事業所と連携、施設をアピール、認知度を高め、利用者増を進める	・相談支援Cとの連携強化する ・特別支援学校等への情報提供、実習促進等を行う	・引き続き関係機関との連携を強化すると共に、受け入れた利用者への弾力的なサービスを提供していく ・事業の特徴として、サービスの口コミ効果を意図していく
3	利用者の健康管理（感染予防等）を進め、障害程度の重度化、高齢化等に対応する支援体制を強化する	職員の専門性の向上のための研修への参加、内部研修等で支援力強化を進めていく	・感染症の勉強会を開催し、職員の意識づけにつなげる ・施設内での感染症の蔓延防止につなげている。
4	利用者ニーズに対応した日中活動プログラムの変革を検討する	・嚥下機能改善に向けて食前の口腔体操を取り入れる ・サンカフェ（喫茶多様化）を検証する ・ボランティア活動を再開する	・利用者に動機づけが行え、事故もなく、安全に食事摂取が行えている ・サンカフェを週1回実施し、利用者に好評を得ている ・音楽や手話ダンスのボランティア活動を再開し、サービス向上につなげている
その他	〈事業所特記事項〉 ・事業説明会（旧保護者会）を5月に開催。土曜日を利用し、日帰り旅行を実施 ・人員配置が厚くなり、研修等への参加が進められるようになった		

事業所名 **心身障害者福祉会館 生活介護**

(令和5年度年間まとめ)

R5年度目標稼働率	R5年度年間平均稼働率
83.0%	67.9%

	計画	実施内容	下半期進捗状況及び年度末結果
1	第二期中期経営計画 (1)【人権擁護（虐待ゼロ）】 (2)【収支改善（赤字ゼロ）】 (3)【職員配置（欠員ゼロ）】	(1)虐待防止委員会・虐待防止現任研修を実施する (2)算定可能な加算等の体制を継続し、収入の確保に努める (3)職員採用活動を積極的に行う	(1)虐待防止委員会を毎月実施。虐待防止現任研修を9月と2月に実施。職員の意識向上につなげた。 (2)体制を確保し算定可能な加算等を算定し、収入の確保に努めた。感染症の影響や利用者の退所等で目標稼働率は達成できなかった。 (3)生活支援員や看護師等の退職があった際は、常勤や非常勤、派遣等で職員の人員体制確保を行った。
2	拠点相談支援事業所と連携、様々な機会に施設をアピール、認知度を高め、利用者増を進める	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談支援センターとの連携強化を進める。</li> <li>特別支援学校等へ情報提供等、関係強化を進める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページの更新を行いサービス内容の発信を実施。</li> <li>相談支援センターや特別支援学校等の関係機関と連携し、新規利用者3名入所</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>リハビリにつながる訓練プログラムを日中活動に組み入れる</li> <li>職員の専門性の向上のための研修への参加を進めていく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>理学療法士、作業療法士、摂食指導等、専門訓練を継続する</li> <li>強度行動障害研修・喀痰吸引研修に参加する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>理学療法士、作業療法士、摂食指導等、専門訓練を継続した事で利用者の身体機能の維持向上や健康支援を実施</li> <li>強度行動障害研修は職員2名が修了。喀痰吸引研修は職員1名が基礎知識まで修了。職員のスキルアップが図れた</li> </ul>
4	余暇支援として地域交流や園芸ボランティアとの活動の充実を図り、また生産活動で作成した商品を安定的に販売し、活動を通じてスキルの向上や体験機会を提供する	<ul style="list-style-type: none"> <li>園芸ボランティアとサツマイモの栽培を実施する</li> <li>生産活動を実施し、作業体験機会を提供する</li> <li>音楽療法プログラムを実施する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園芸ボランティアの協力でサツマイモの収穫まで実施</li> <li>またハンドベルボランティアによる演奏会を実施</li> <li>生産活動を実施し、作業体験機会を提供</li> <li>音楽療法プログラムを実施</li> </ul> ※上記の活動提供で、利用者によくの楽しい経験の時間を提供し、サービス向上が図れた
その他	〈事業所特記事項〉 ・令和5年度 第三者評価受審		

事業所名 **心身障害者福祉会館 機能訓練**

(令和5年度年間まとめ)

R5年度目標稼働率	R5年度年間平均稼働率
46.0%	62.2%

	計画	実施内容	下半期進捗状況及び年度末結果
1	第二期中期経営計画 (1)【人権擁護（虐待ゼロ）】 (2)【収支改善（赤字ゼロ）】 (3)【職員配置（欠員ゼロ）】	(1)虐待防止委員会・虐待防止現任研修実施する (2)入所者を増やし、収入の確保に努めていく (3)職員採用活動を行っていく	(1)虐待防止委員会を毎月実施。虐待防止現任研修を9月と2月に実施職員の意識向上につなげた (2)利用者の登録者数を14名前後で維持し、目標稼働率は達成収入の確保に努めた (3)生活支援員や看護師等の退職等があった際は、法人内異動や常勤採用で職員の人員体制確保を行った
2	利用者を増やす。	拠点相談支援事業所や医療機関、在宅介護支援センター等と連携、様々な機会に施設をアピール、認知度を高める	拠点相談支援事業所や医療機関、在宅介護支援センター等と連携し、施設をアピールする事で、新規の利用者を増やせた
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就労自立・社会生活の再構築等の目標・課題を達成する。</li> <li>・サービスの質の向上。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業療法士、理学療法士、リハビリ科医師の出勤日を利用者支援に合わせ、柔軟に対応する</li> <li>・計画に基づいた効果的な支援・訓練プログラムを提供する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業療法士、理学療法士、リハビリ科医師の出勤日を利用者支援に合わせ柔軟に対応し、サービス向上につなげた</li> <li>・新規で、訓練ノート（振り返りやスケジュール確認用）を作成し効果的な支援・訓練プログラムを提供。利用者の障害理解の促進につなげた</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・送迎サービスや訪問型訓練の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験利用期間から、無料で送迎サービス・通所訓練を実施する</li> <li>・悪天候や酷暑の日は、送迎サービスを行い、安全管理支援を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験利用期間から、無料で送迎サービス・通所訓練を実施し新規利用につなげた</li> <li>・悪天候や酷暑の日は、送迎サービスを行い、安全管理支援を実施。事故等のリスク管理につなげた</li> </ul>
その他	〈事業所特記事項〉 ・令和5年度 第三者評価受審		

事業所名 **品川区旗の台障害児者相談支援センター**

(令和5年度年間まとめ)

R5年度目標稼働率	R5年度年間平均稼働率
/	/

	計画	実施内容	下半期進捗状況及び年度末結果
1	第二期中期経営計画 (1)【人権擁護（虐待ゼロ）】 (2)【収支改善（赤字ゼロ）】 (3)【職員配置（欠員ゼロ）】	(1)虐待防止委員会・虐待防止現任研修を実施する (2)超過勤務時間の削減に努める (3)相談支援専門員0.5名分の補充を行う	(1)虐待防止委員会を毎月実施。虐待防止現任研修を9月と2月に実施 (2)超過勤務時間については、前年度と比べ一人当たりの1ヶ月の平均時間数は若干減っているが、職員や時期によって差が見られた (3)紹介会社を通して数名の面談は実施したが、年度末までに補充することができなかった
2	支援技術の向上に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数担当制を継続し、ケースを通して他者からの助言を受ける機会を作る</li> <li>月2回の会議で、意見交換、自身の支援を振り返る場を設ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数担当を継続したり、会議でのケース報告を通して意見交換したりすることができている</li> <li>普段の業務中のやり取りの中でも他者の意見を求めたり、意見交換する様子が見られている</li> <li>サービス向上の取り組みとして年間を通して「アセスメント」について皆で学ぶ機会とした</li> </ul>
3	関係機関との連携強化。	自立支援協議会、相談支援部会、各種連絡会などに参加し、他事業所との関係構築、情報収集を行い支援に活かしていく	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種会議に必ず複数名の相談員が出席し、関係機関と顔の見える関係を構築した</li> <li>部会や連絡会に継続して同じ職員が参加することで、区内の課題について他事業所の職員と継続して考え、取り組む機会となった</li> </ul>
その他	〈事業所特記事項〉 ・1月以降「個別避難計画」作成の補助業務 ・主任相談支援専門員：品川スキルアッププロジェクトの事例検討のスーパーバイザーとして参加（2回/年）		

事業所名 **障害者計画相談支援事業所（中延・大井第二・八潮）**

（令和5年度年間まとめ）

R5年度目標稼働率	R5年度年間平均稼働率

	計画	実施内容	下半期進捗状況及び年度末結果
1	第二期中期経営計画 (1)【人権擁護（虐待ゼロ）】 (2)【収支改善（赤字ゼロ）】 (3)【職員配置（欠員ゼロ）】	(2)一定のケース数を維持し、 収入を確保する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の会議にて、事業所の稼働予定数、担当ケース数を確認している</li> <li>・地域によってケース数に差があることは継続の課題であり、連絡会などを通して区に報告している</li> </ul>
2	支援技術の向上に努める	法人内の障害相談事業所合同で年4回 現任研修を実施し、各ライフステージ で必要な関わり等を学び合う場を設ける	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年4回、合同研修を実施。ライフステージ毎の課題などを共有することで学びの場となった</li> <li>・併設支援センター会議やつぶやき会などを通して、他者と情報・意見交換することで各相談員の視野を広げることができた</li> </ul>
3	高齢障害者の支援ニーズを把握しながら支援を行う	事業所の現状を報告することで、区内 高齢障害者相談支援事業所の運営につ いての改善点を明確化、より良い形を 提案していく	事業所によるケース数の偏りについて所管課に報告、相談を行っているが、 大きな改善には繋がっていない
4	高齢者施策との連携を進める	在宅介護支援センター等との関係構築 に努め、連携しながら支援を行う	地区ケア会議などが再開した為、様々な連絡会や会議に参加したり、担当 ケースを通して連携を取りながら進めている
その他	〈事業所特記事項〉 ・各事業所の職員が長期休みの場合など、電話の転送や代理の対応などを行い、3事業所で連携を取りながら進めた		

事業所名 **品川区障害者地域活動支援センター**

(令和5年度年間まとめ)

R5年度目標稼働率	R5年度年間平均稼働率
/	/

	計画	実施内容	下半期進捗状況及び年度末結果
1	第二期中期経営計画 (1)【人権擁護（虐待ゼロ）】 (2)【収支改善（赤字ゼロ）】 (3)【職員配置（欠員ゼロ）】	(1)虐待防止委員会内容を周知し、虐待防止現任研修を実施する	(1)虐待防止委員会を毎月実施。虐待防止現任研修を9月と2月に実施
2	事業に必要な知識や技術を身に付け、新しい発想で区民や利用者のニーズに合った事業を提案できる職員を育成する	他事業所の見学を計画的に進めていく	上半期に区内の他事業所を各自1回ずつ、下半期には他自治体の事業所を2ヶ所見学し、会議を通して職員間で共有している
3	意思疎通支援事業に関する検討事項について所管課、関係機関と話し合いを進め、改善に取り組む	<ul style="list-style-type: none"> <li>手話通訳全国統一試験導入に向けて準備を進める</li> <li>昨年度からの継続検討事項の進捗状況について所管課に確認する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手話通訳全国統一試験導入に向けて、品川区聴覚障害者協会や品川区登録手話通訳者の会と話し合いを行い、次年度からの試験の導入、対策講座の実施に向けた準備を進めた</li> <li>手話通訳に関する意思疎通支援事業の全体会議や通訳者懇談会などを通して今後の課題や改善点について話し合いを行っている</li> </ul>
4	区民に事業内容を発信することで新規登録利用者を増やす	ホームページやパンフレット等を活用し、区民に事業内容を発信する	今年度、支援センターからの紹介で新規利用者が3名増えた
5	新規ボランティアを増やしていく	継続した教室運営を行う為に、紹介やホームページ等を通して情報を収集し、新規の講師やボランティアを募る	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度、教室（折り紙）の講師、ボランティア1名（ミュージックセラピー）の交代があった</li> <li>ワークショップ（クラフト、水引等）の開催にあたり、外部に講師を依頼した</li> </ul>
その他	<p>〈事業所特記事項〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア育成・啓発講座は、内容によって応募者に大きな差が見られている。応募が少ない講座の内容について検討している。</li> <li>法人の事業である「移動支援従業者養成研修」を開講し、9名に修了証を発行している。</li> </ul>		

事業所名 **福祉工場しながわ**

(令和5年度年間まとめ)

R5年度目標稼働率	R5年度年間平均稼働率
72.0%	68.8%

	計画	実施内容	下半期進捗状況及び年度末結果
1	第二期中期経営計画 (1)【人権擁護（虐待ゼロ）】 (2)【収支改善（赤字ゼロ）】 (3)【職員配置（欠員ゼロ）】	(1) 「利用者の尊厳の維持と尊重」を目標に就労支援を進める。 (2) 予算の適正執行を進める。 (3) 職員確保に努める。	(1) 利用者の尊厳の維持と尊重を基本に就労支援を進めてきた (2) 施設会計、就労支援会計予算の適正執行を進めた 「就労支援事業収入」 ①清掃事業72,068,602円(前年度比+0.12%) ②製パン事業20,892,400円(前年度比+18.5%) ③製陶事業47,126,068円(前年度比△9.2%) (3) 新年度に向け必要な人員体制を整えた
2	(1)プチレーブ店舗移転の計画作成、準備を最重要課題とする。 (2)製陶事業では製品の増産体制を進めていく。	(1) 希望する物件の確保に向け、不動産会社等からの賃貸店舗物件情報を収集し、内覧、店舗構想検討してきた。 (2) 製陶年間計画に沿って製作していく。	(1) パン工房プチレーブの収益性、継続性を考慮し、年度末に工場・店舗の移転先は賃貸物件から、法人所有建物活用に方針転換し、法人本部売店の活用に向け準備に入った。保健所等との事前協議を進めてきた (2) 納品計画を見直し、製作スケジュールを改変し、製陶製品の増産が進み、収益性が高まった。また製作過程を精査し、製作精度、品質管理面が向上した
3	・建物が建築から10年以上が経過、建物老朽化に対応する。	・小破修繕については管理者と営繕課で実施する。 ・改修等が必要な箇所を洗い出し、改修計画を作成していく。	・漏水防止等必要な小破修繕を実施、非常灯の交換など設備のメンテナンスを進めた ・改修等が必要な箇所を洗い出し、今後の年度ごとの改修計画を作成、予算作成時に反映させていく
4	・従業員、利用者の高齢化対応を進め、働き易く、安全性の高い作業内容の検討を進める。	・職員を増員し、業務自体を見直して安心かつ安全な業務を遂行する。	・職員を増員し、ことに清掃業務において保安、巡回業務確認がさらに機能化した ・従業員、利用者勉強会（自己決定支援、就労意識の向上を目的に）を開催した
その他	〈事業所特記事項〉 ・慰安旅行は4年ぶりに日帰りで千葉に行き、その他慰労、交流促進を兼ねた暑気払い、忘年会を実施した		



事業所名 **鮫洲なぎさの家**

(令和5年度年間まとめ)

R5年度目標稼働率	R5年度年間平均稼働率
100.0%	99.8%

	計画	実施内容	下半期進捗状況及び年度末結果
1	第二期中期経営計画 (1)【人権擁護（虐待ゼロ）】 (2)【収支改善（赤字ゼロ）】 (3)【職員配置（欠員ゼロ）】	(1) 人権擁護、虐待防止研修を実施。 (2) 予算の適正執行を進めた。 (3) 人員の確保の検討、採用活動を進めた。	(1) 職員の人権擁護、幸福追求支援の意識が高まった (2) ほぼ予定通りの額を収入している (3) 年度末に世話人を1名補充した
2	・利用者の高齢化対応を進め、医療機関や日中活動事業との連携強化を進める	・高齢のご家族に代わって通院等の付き添いを実施 ・利用者の体調不良等の変化が増加 ・相談支援事業所と情報を共有	・利用者の定期通院、検査の付き添いの頻度が増え、職員が同行、支援を行ない、医師等との連携を進めてきた ・利用者の通所先の日中活動事業所や相談支援事業所との連携、協働体制を整えてきた
3	・利用者との対話の中から生活における幸福追求支援を導き出していく	・日常会話の中からお本人が望むライフスタイルを見出す。	・利用者の意向を確認しつつ、グループホーム全体での行事、個別支援の余暇活動を進めてきた
4			
その他	〈事業所特記事項〉 ・地域の防災活動に参加した ・地域住民との地域交流機会は感染予防を考慮して実施しなかった		

事業所名 さつき

(令和5年度年間まとめ)

R5年度目標稼働率	R5年度年間平均稼働率
98.0%	102.1%

	計画	実施内容	下半期進捗状況及び年度末結果
1	第二期中期経営計画 (1)【人権擁護（虐待ゼロ）】 (2)【収支改善（赤字ゼロ）】 (3)【職員配置（欠員ゼロ）】	(1)都の虐待防止研修を受講、基本に立ち返り、職員周知する (2)高い稼働率と黒字を出す (3)定期的な総務からの情報収集	(1)少人数ではあるが参加し、研修報告を回覧している (2)目標稼働率を達成し黒字収支となっている (3)非常勤職員と派遣職員も採用し、適正職員配置としている
2	利用者の自己実現や生きがいを大切に、自立を目指した自己決定を尊重する	様々な障害特性の理解の為、課題が発生した際は、職員会議でケース会議として検討し、支援方法の模索をした	<ul style="list-style-type: none"> <li>高工賃を維持し、利用者自身のモチベーションに繋がっている</li> <li>安定した工賃支給を受けている事で、家族の信頼や満足にも繋がっている</li> <li>業者担当者と密に連絡を取り合い、安定した受注が出来ている</li> </ul>
3	人権擁護や尊重を徹底し、虐待の根絶のため、利用者の特性と心を充分理解する	<ul style="list-style-type: none"> <li>法人での虐待防止委員会の取り組みを重点的に職員周知する</li> <li>朝礼においてスピーチロックの言い換えを唱和する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>法人での虐待防止委員会の取り組みを都度職員に周知した</li> <li>朝礼においてスピーチロックの言い換えを唱和した</li> <li>職員が丁寧な言葉使いをすることで、利用者同士も丁寧な言葉使いや良好なコミュニケーションとなる様に支援した</li> </ul>
4	職員の人材育成、職場定着支援を行い、チーム力を高め、質の高いサービスを提供する	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の事務処理は、現場に影響がない範囲で実施する</li> <li>定時で帰る為のシミュレーションを行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務が一人の職員に偏ることなく、分担し定時退社が出来ている</li> <li>就労に関する事だけではなく利用者との細かな関わりを大切に、生活支援も重視し、サービス向上に繋がった</li> </ul>
その他	〈事業所特記事項〉		

事業所名 **八潮中央保育園**

(令和5年度年間まとめ)

R5年度目標稼働率	R5年度年間平均稼働率
100.0%	104.7%

	計画	実施内容	下半期進捗状況及び年度末結果
1	第二期中期経営計画 (1)【人権擁護（虐待ゼロ）】 (2)【収支改善（赤字ゼロ）】 (3)【職員配置（欠員ゼロ）】	(1)人権擁護に特化した取り組みを行 う (2)業務効率化を進め超過勤務を削減 しワークライフバランスを図る (3)働きやすい職場づくりの推進	(1)虐待防止チェックリストの活用を変化させ、職員間での積極的な意見 交換及び出された意見に対してのフィードバックの強化につながった (2)業務の効率化に関して職員からの意見を募り、実現化したもの、次年 度に変更予定のもの等、効率化への見通しが明確になった 超過勤務については、感染症による長期休暇者が重複したり、人員体 制が整備されない時期があったりしたことで、削減には至らなかった (3)気が付いたことを言い合える雰囲気作り、そのためのシステム構築の 一環として、職員会議の進行方法を変更させ、次の点を強化した 「議題の提案から結論を明確にする」「時間を厳守する」「ねえねえタ イムの施行」（注）ねえねえ、聞いてから始まる話題、意見の共有
2	職員の意識の統一、質の向上	保育観等の価値観のすり合わせを行い 意思疎通を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員の階層別会議を多く設け、それぞれの役割を明確にし、職員から の意見抽出、会議の進行を役職以外が行う等、意見の言いやすい環境、 主体的に考える機会を設けた</li> </ul>
3	働きやすい職場づくり	担務業務が見える化を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>各クラス1台のiPad導入により、保育室内にて情報が閲覧可能となり 個々の予定が把握しやすくなった</li> <li>誰がどの程度の時間を業務に要するのか、そのための時間捻出の工夫等 はまだ課題である</li> </ul>
4	感染症対策と災害時の連携	情報収集を行い関係機関と連携し保護 者への協力要請と啓発に努める	<ul style="list-style-type: none"> <li>園内で発生した感染症については、園内の掲示板での情報開示を行い、 保護者への注意喚起に努めた</li> </ul>
その他	〈事業所特記事項〉 ・年間通して、園児の増減の推移がほとんどなく、安定した稼働率となっている ・年度初め5月に公共交通機関内での職員の不適切な言動により、地域住民より苦情を頂いた ・以降、会議や研修の場で施設内での職業倫理の強化に努めた		

事業所名 **八潮北保育園**

(令和5年度年間まとめ)

R5年度目標稼働率	R5年度年間平均稼働率
98.0%	95.0%

	計画	実施内容	下半期進捗状況及び年度末結果
1	第二期中期経営計画 (1)【人権擁護（虐待ゼロ）】 (2)【収支改善（赤字ゼロ）】 (3)【職員配置（欠員ゼロ）】	(1)事業所内の虐待研修を実施 (2)支出減と収入増加の取り組みを実施 (3)職員採用活動を積極的に行う	(1)9月30日に、全国保育士会のチェックリストや資料を基に研修を実施。 (2)一時保育の受け入れを実施 延べ21人の一時保育を行い、¥180,600-の収入増となった (3)年間を通して1名の欠員、11月に1名、12月に2名の休職者が出ている。正規の職員採用には至らなかったが、派遣看護師、派遣の保育補助を利用してきた
2	働きやすい職場づくり	・業務マニュアルの作成づくりを行う ・ICTの有効活用を進める	・職員の業務マニュアルを作成、3月に完成し、R6年度より活用開始 ・ICT(チャイルドケアウェブ)の活用で、保護者への連絡をチャイルドケアで行っている ・園全体のお知らせ、クラスでのお知らせ、個人向けのお知らせと、使い分ける事で、それぞれの情報をタイムリー把握し伝え忘れが減っている
3	専門性の向上と障害特性の理解	子どもの支援についての研修に参加する	・日々の人員確保を優先したことで積極的に行う事ができなかった ・外部研修では、保育課主催の特別支援保育研修には4名、子どもの権利条約の精神と子ども主体の保育に2名参加 ・内部研修では、法人内の研修、外部講師による園内の研修(臨床心理2回・学校心理4回)実施、参加
4	感染症対策	・感染症拡大防止のための情報収集を行う ・保護者への協力要請、啓発を行う	・嘱託医との情報交換や、保育課からの情報を基に、保護者へ情報提供を行った ・園内で発生した感染症は、園内の掲示板での情報開示を行った
その他	<p>〈事業所特記事項〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公設民営の保育園であり、園児の在籍人数に関係なく毎月一定額の契約金で運営をしている</li> <li>・今年度は園児の入退園が多く、年間を通して定員を満たす事はなかった。その為、目標稼働率に達していない</li> <li>・必要な有資格者の配置は行っているが、今年度1名の欠員と3名の休職者が出た事で、保護者より職員不足の声が多く上がってしまった</li> <li>・上階の住民からのクレームが多く、子どもの声や夜の電気、子どもの遊びについてもクレームが入り、随時対応をしているが内容がエスカレートしている</li> </ul>		

事業所名 **八潮わかくさ荘**

(令和5年度年間まとめ)

R5年度目標稼働率	R5年度年間平均稼働率
	94.7%

	計画	実施内容	下半期進捗状況及び年度末結果
1	第二期中期経営計画 (1)【人権擁護（虐待ゼロ）】 (2)【収支改善（赤字ゼロ）】 (3)【職員配置（欠員ゼロ）】	(2)共益費の回収を行う (3)円滑に運営できるよう、世話人職員を雇用する	(2)共益費の回収は実施出来ている (3)世話人の欠員があったが、第一四半期に1名の雇用を行い、円滑に運営を行うことができた
2	日常の状態変化の把握に努め、必要な相談機関やサービス利用等の連携を図れるように支援する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・可能な方には、サービスセンターへの利用をすすめる</li> <li>・必要な方には、通所給食を利用させていただく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・随時、住民の変化を観察し、必要な方に必要なサービスを提供した</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熱中症など注意喚起を徹底</li> </ul>	注意喚起を行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>・注意喚起文書を配布し、熱中症を防ぐことが出来た</li> </ul>
4	設備老朽化が進んでおり、退去のタイミングで、給排水設備更新とキッチンのリフォームを実施する	リフォームを実施する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空室の2部屋にてリフォームを実施した</li> </ul>
その他	〈事業所特記事項〉 <ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間、休日の管理業務は、世話人職にて行っている</li> <li>・日々共有部分の清掃（福祉工場に再委託）を実施している</li> <li>・居室内設備の老朽化が進んでいるため、必要に応じて交換を実施している</li> </ul>		

事業所名 **大井倉田わかくさ荘**

(令和5年度年間まとめ)

R5年度目標稼働率	R5年度年間平均稼働率
	100.0%

	計画	実施内容	下半期進捗状況及び年度末結果
1	第二期中期経営計画 (1)【人権擁護（虐待ゼロ）】 (2)【収支改善（赤字ゼロ）】 (3)【職員配置（欠員ゼロ）】	(1)訪問し、モニタリング実施する (2)共益費の回収を行う	(1)モニタリング実施 わかくさ荘居住者間の人間関係上のトラブルもあったが、その都度面談を実施しトラブルは終息している (2)共益費の回収を行った
2	詐欺や不審者の侵入防止等防犯に努め、入居者が安心して生活を営めるように支援する。	防犯カメラの稼働状況の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1日1回の巡回を含め防犯カメラの確認を実施</li> <li>・ 不審者の来訪や詐欺等の話も無く、安心した生活が継続している</li> </ul>
3	設備老朽化が進んでおり、退去のタイミングで、給排水設備更新とキッチンのリフォームを実施する	リフォームを実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年間を通して空室は無く、リフォームは実施していない</li> </ul>
4			
その他	〈事業所特記事項〉 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 夜間、休日の管理業務は、継続して機械警備（ALSOKに再委託）で行っている</li> <li>・ 定期的に除草や植栽の管理、廊下やドアの清掃（福祉工場に再委託）を実施している</li> <li>・ 敷地内のすべての樹木の剪定を実施（西村造園に再委託）</li> <li>・ 居室内設備の老朽化が進んでいるため、必要に応じて交換を実施している</li> </ul>		

事業所名 **大井三丁目高齢者憩いの場**

(令和5年度年間まとめ)

R5年度目標稼働率	R5年度年間稼働率

	計画	実施内容	下半期進捗状況及び年度末結果
1	第二期中期経営計画 (1)【人権擁護（虐待ゼロ）】 (2)【収支改善（赤字ゼロ）】 (3)【職員配置（欠員ゼロ）】	(1)高齢者の健康維持および増進、ならびに生きがい作りを支援できるよう地域高齢利用者のニーズに応えた企画を実施する	(1)「障害のある方のための縁側相談会」を2回開催 障害相談員が個別に、障害者の親（高齢利用者）の相談を受け、新たなニーズへの対応を行った (3)受付対応の職員の欠員はすぐに補充要員を手配し、通常通り実施
2	高齢者の健康維持と増進、介護・認知症予防等の事業を通し、生きがいづくりの支援となる場を作る	・「園芸療法」や「地域ミニデイ」など、予定しているプログラムを実施する ・「MCIプロジェクト」を実施する	・多くの住民が参加し予定していたプログラムはすべて実施している ・新規プログラムである認知症予防に特化したプログラムは、脳トレアプリを活用し、健康面でも数値を測定することで、体力の向上が見える化することが出来た ・脳活スマホ教室では、脳トレアプリの学習の他、その日の利用者のニーズに応じた内容も指導に取り入れて実施、高齢者が困っていることをすぐ解決できるよう工夫して実施した
3	高齢者・障害者・子育て世代等多世代交流を進め、共助が自然と身につくまちの小さな拠点づくりを推進する	・「ひなたぼっこ」「自分力アップ事業」等予定しているプログラムを実施する。	・多世代交流のプログラム「ひなたぼっこ」を5月に4年ぶりに再開した ・感染対策で、調理プログラムは区の許可が下りず、創作のみで実施 ・利用者のニーズを取り入れた内容で各種創作を実施 ・子どもの参加があった日は、高齢者と子どもの共助の場面も見られた ・今後も新規高齢者と子どもの参加が増えるよう、広報を工夫していく
4	地域交流事業	こすもすパーティを開催する	・地域交流イベントを感染対策を考慮し、4年ぶりに開催した ・初めての来場者も多く、新規利用者へのPRができた ・来場者アンケートの要望やご意見を参考に企画に取り入れている
その他	〈事業所特記事項〉 令和5年度 大井三丁目高齢者憩いの場	年間利用者延べ人数 3,722名（法人実施事業2,756名、他団体実施事業966名） 開催回数 739回（法人実施事業 584回、他団体実施事業155回）	